

伝統と未来に生きる ザフィマニリ村の 子どもたち



Jeny

なまえはゼニイ、12 さい

Nene

なまえはネネ 10 さい

民族学者が見た

ザフィマニリのくらしの変化

展示場出口に近いシアター空間で見ていただくように、この20年間におけるザフィマニリのくらしの変化は目ざましい。交通は不便なままだが、外国産のさまざまな工業製品が入ってくる。こうしたなかでは、手仕事も、これまでほど盛んにはおこなわれなくなるのかもしれない。しかし、あたらしいくらしのなかでも手仕事を活かすことはできる。電灯の修理だって子どもがやっている。



特別展 マダガスカル 霧の森のくらし

2013 年3月14日(木)～6月11日(火)

● 国立民族学博物館

1 ゼニイ：ぼくが水田を牛追いでたがやしているところを映像で見て

ネネ：わたしは田植えをしているのよ

子どもは、幼いころから両親といっしょにおとなの仕事をおこなします。結婚の頃までは、両親の仕事をおぼできるようになります。子どもが増えると、両親から習わなかった商売を始め、社会的な信頼を得ることもあります。

2 ゼニイ：ソーラーパネルどこにあるかな？

ネネ：窓のところにありよ、見つけてね

ソーラーパネルで電気をつくり LED ランプで部屋にあかりをとめています。最新式の LED だけではなく、昔ながらの方法で灯りをともすこともあります。雨の日は、缶の灯油ランプを使います。

3 ネネ：髪を編んでもらっている映像を見て！

ゼニイ：女の子の髪型ってすごい！

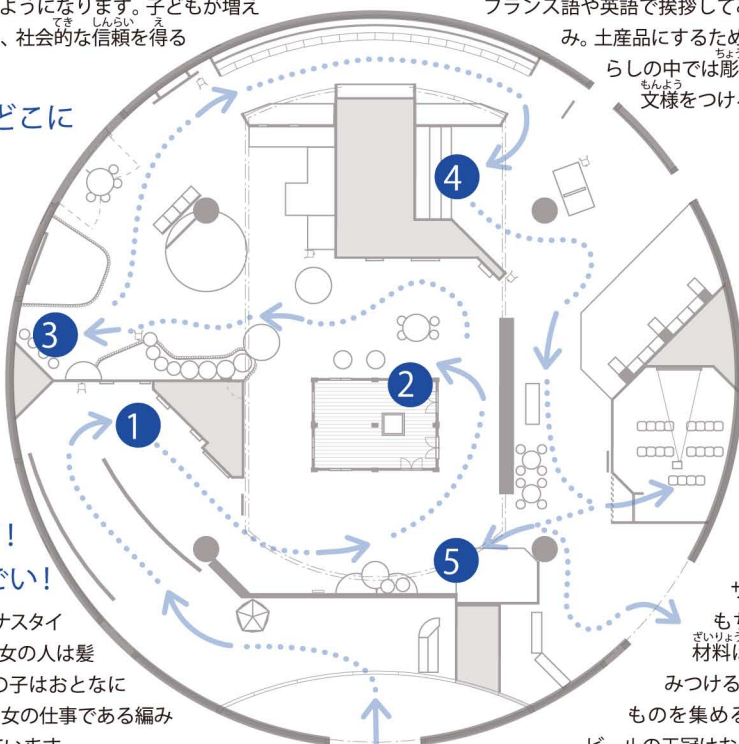
流行っているのは「キドゥク・テレフォニナスタイル」。意味は携帯電話型。ザフィマニリの女の人は髪を伸ばして編みこみにしています。女の子はおとなに教えてもらって編めるようになります。女の仕事である編みの技術はこんなところでも引き継がれています。

4 ゼニイ：まるい腰かけ？ 小物入れ？ どれが好き？
ネネ：外国人はお土産をたくさん買っていくね

ザフィマニリにはヨーロッパからの旅行者がたくさん来ます。フランス語や英語で挨拶してみるのが子どもにとっての楽しみ。土産品にするために、これまでザフィマニリのくらしの中では彫刻をしなかったものでも木彫り文様をつけるようになりました。

5 ゼニイ：王冠でブンブンごまをつくってみる？
ネネ：それとも、編み遊びしてみる？

ザフィマニリの子どもたちは、おもちゃを自分でつくるのが得意。材料は花や葉っぱなど自然の中からみつかることもあるし、いらなくなったものを集めることもあります。ジュースやビールの王冠はおもちゃづくりに格好の素材です。



未来と伝統に生きるザフィマニリの子どもたち